

図書館ニュース

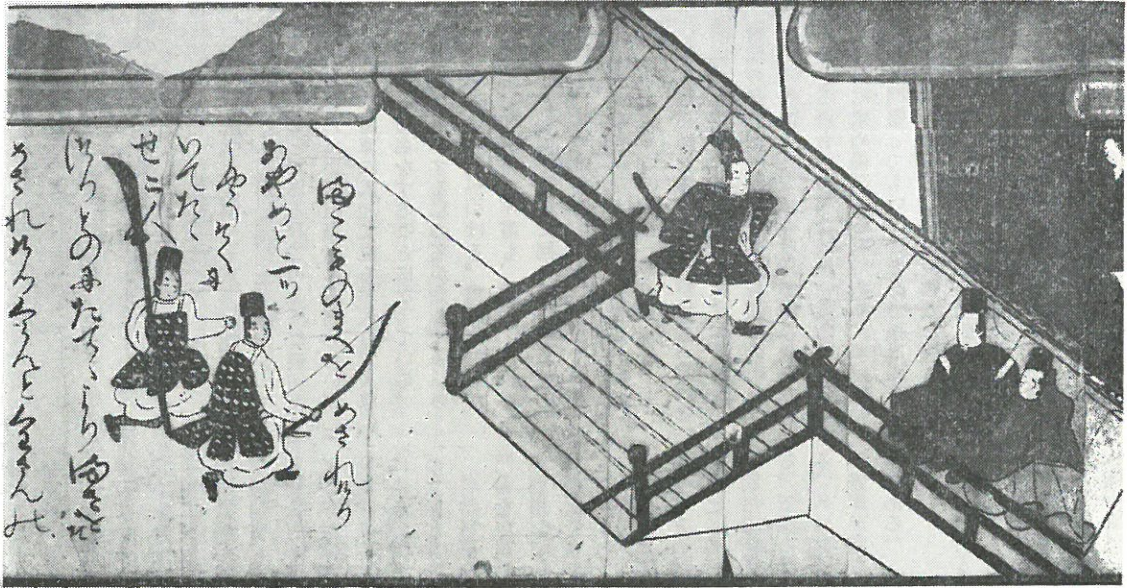
No. 7

1967

42・11・10・発行

発行人 園田 義道

発行所 東京都文京区白山5丁目28番の20号 東洋大学附属図書館



あやめの前の一部

創立八十周年に寄せて

図書館長 園田 義道

八十周年記念事業の一つとして新図書館が建設されることは当局よりしばしば発表された通りである。そのため昭和四十年六月には図書館建設準備委員会が発足し、着々と準備を進めてきた。昨年初夏にはほぼ大づめにきた感で、予定通り進捗していれば、この式典の時には完成に近く、極めて快適な環境にめぐまれた特色ある新図書館が我々の前に姿を現わした筈である。

残念ながらこれは実現しなかった。土地問題が不調に終わったからである。しかし当局は息つく暇もなく新たに隣接した敷地をうるべく努力を重ね、そのかいあってほぼ土地買収を終ったときいている。これに合せた設計も基本構想は既になり、館員も図書館の機能に対する日頃の研修の成果が計画に盛り込まれ、サービスに万全を期しえられる日の近からんことを一日千秋の思いで待ち望んでいる。

現図書館は数年前から行きづまっていた、新館の建設は焦眉の急なのである。現在書庫からはみ出した書籍はそれぞれ離れた七箇所に別置されているし、閲覧坐席もまた著しく不足している。現図書館はその機能を半ば停止しているといつて過言ではない。

私は現当局の誠意を豪も疑わない。未だ着工に至らないのはそれだけ充分な理由がある。しかしそれでよいということはない。至急実現されねばならない。かかる時こそ学祖井上門下先生が偲ばれるのである。世に創業の人には難局に出合うとかえって勇氣百倍し、艱苦を逆に躍進の転機とする者が多い。学祖のけいがいに接したことはないが、恐らくこういう型の大人物であったと推察される。この時に当って我々は学祖の精神を体得する責務を痛切に感ずるのである。

本学図書館利用者の立場から

——八十年知的財蓄積の宝庫の展望——

天 野 敬 太 郎

創立八十周年に当って、本学図書館の現状の大体を、利用者の立場から眺望しようと思う。

第一閲覧室は、学生が書庫内の書物をカードによって調べて申込み、出された書物を閲覧するところである。この閲覧室の一隅に、閲覧用のカード目録があるが、これは和漢書、洋書一体の辞書体目録である。すなわち、著者名からでも、書名からでも、主題を表わす件名からでも検索ができる便利な目録である。その編集は容易でないため、日本のどの図書館にでも見られるというものではない。従って、この目録は、本学の誇りの一つとしてよいであろう。同時に担当者のみならず努力に敬意を表さねばならない。

もう一つ注目するものは、全集物、著作集などに収録する個々の著作や作品に対して丹念に一つづつ分出カードが作られていることである。求める著作や作品が、どの全集や著作集の何巻にあるかを一々調べなくても、すぐ判るようになっていいるから、利用者にとっては、実にあ

りがたいことである。このような親切な作業をされている担当者に多謝したい。

次に、書庫に入っている。入口で入庫者名簿に署名をすることになっている。たびたび入庫する私の名が余りに多いので、ちよつと気が引ける。書庫は三層であつて、和漢書も洋書も、古典も新書も、一本の同一分類で同一の書棚に並んでいる。書庫は書物で充満し、これ以上に書物も書棚も入れる余地がない程にギッシリと詰っている。

それから降りて、参考室を見る。百科事典、専門の辞典、人名辞典、各種の図書館の目録、各学科の文献目録や索引などが、多数によく集められている。研究調査する場合に必要な基礎知識は、何でも容易に求め得られる室であり、学術研究の入門室ともいふことができるであろう。ここで修得した基礎知識を基にして、更に専門書に進み、学術技法を探求することになるのである。

参考室の向い合いに雑誌室がある。種々な雑誌が雑誌専用の書棚に陳列されているが、室が狭いため、全部の雑誌を陳

列することはできない。書棚には最新号を並べ、旧号はその後部の箱に納められ、完結合本するまでの間、ここに収蔵されているから、利用者には好都合である。

第二閲覧室は三号館の二階にある。一角に書棚が並んでいて、各学科の入門書や概論書、主要な全集叢書、各学科の指定書などがあつて、いわゆる開架閲覧室で、学生は書物を自由に選り出して学習研究する室である。大型本は、別の書棚にあるが、とくに目を引くものは、多くの立派な美術書である。

各学科研究室にも、それぞれ多数の専門書を収蔵して、所属の教授や学生が利用している。私も、ときどき、他学科の研究室の書物を借りて読むことがある。

学生はよく図書館を利用して、いつも、どの閲覧室も超満員である。学生数に比べて総坐席数が少ないため、十分に利用できないのが、何よりも残念である。新築の計画があることを聞いている。ユックリとした閲覧室、ゆとりのある書庫が完成するの日を鶴首している次第である。

(社会学部教授)

分館所蔵文献抄録誌及び索引(Pickup)

- | | |
|---|--------------------|
| 1. ANALYTICAL ABSTRACT. | 10. 海外技術ハイライト |
| 2. BAUINGENIUR. | 11. 日本化学総覧 |
| 3. BAUTECHNIK. | 12. 日本機械学会誌 |
| 4. CHEMICAL ABSTRACTS SERVICE WITH INDEX. | 13. 雑誌記事索引 |
| 5. CURRENT CIVIL ENGINEERING LITERATURE (PROCEEDINGS OF THE ASCE) | 14. 科学技術文献速報 物理編 |
| 6. ENGINEERING INDEX. | 15. 科学技術文献速報 機械編 |
| 7. SCIENCE CITATION INDEX. | 16. 科学技術文献速報 電気工学編 |
| 8. 海外科学技術資料月報 | 17. 科学技術文献速報 土木建築編 |
| 9. 外国航空・宇宙文献目録 | 18. 科学技術文献速報 化学工学編 |
| | 19. 科学技術文献速報 金属工学編 |

図書選択委員会とは、東洋大学図書館の必要とする図書及びその他の資料（以下図書とのみ略称する）を選択するために設置された委員会であり、東洋大学附属図書館規則第十五条によると

研究及び教育上必要な図書の選択。

その他学生の教養上必要な図書の選択。

とあって、研究と教育及び広く教養を涵養する上に必要な一切の図書を選択し、その結果にもとづいて購入することになっている。もっとも、洋書を中心とした専門的研究書については、各学部による選択をまかせてあり、委員会としては、書誌(目)・辞書などの参考図書、和書を中心とした学生用図書、及び専門書でも主題が広くいくつかの学部学科に亘る図書(書)についてその購入の可否を審議することが主要な任務となっている。

(注)参考図書、専門書、学生用図書の厳密

な意味での区別の不可能なことは言うまでもなく、事実上この間には顕著な重複がみられる。

委員会の構成は、

- 1、各学部、教養課程委員及び短期大学から推薦された専任教員各二名、
- 2、大学院研究科委員会から推薦された研究科委員各一名、
- 3、館長、副館長(欠員)、分館長、課長、課長補佐(欠員)、司書三名以内(欠員)であり、

図書館

の動き

1と2の委員の任期は二年で留任を妨げないことになっている。また委員は、館長が学長の承認をえて理事長が委嘱するきまりである。

図書選択委員会

る。委員長は館長が当り、委員会を招集して議長となることになっている。

実際の選択に当っては

一、館内での予備的選択

館長を除く館内の選択委員に当番の館員が若干加って、書目・書評、業者の見計本、広告・カタログなどによって必要と思われる図書を選択する。

二、書肆の店頭又は取次業者での選択

図書選択委員(又はその代理者)及び当番の館員とが、直接書店又は取次業者に出向いて、棚に並べられた必要と思われる図書を選抜して、見計本として納入してもらう。見計本として納入させるのは、不必要な重複や委員会では不要と決定された図書を返本するためである。

三、選択委員推薦図書

選択委員が、その専門的識見より、必要と思われる図書を推薦する。

これらは、購入の最終

決定ではなく、委員会提出資料作成の材料にすぎない。両者とも納入された現物とともに、そのリストをコピーし、委員会に提出して審議を求め、異議のある図書のみ返本して他は購入することになっている。

この他に、臨時的に必要なまとまった個人蔵書などが出た場合、委員会の承認によって購入することも考えられるが、まだその例を見ない。同じく例のないものに、図書館合同委員会がある。これは図書館運営委員会(全学的収書方針、図書館の設備及び予算要求、図書館の規則・規程の制改廃、図書の廃棄等を目的とする)と共通する問題を生じたときに招集されることになっている。

図書館建設準備委員会

第十回図書館建設準備委員会は、九月二十二日(金)正午から開催された。これは川越移行検討委員会の施設・設備分科会の意向をうけて開かれたものだが、委員の多数から、この建設準備委員会は八十周年記念図書館問題のみを取扱い、それ以外は審議対象にならないという意見が述べられ、川越問題は除外された。

その結果、可及的速かに白山に記念図書館を建設すべきであるという決議がなされた。なお教養課程一年の川越移行が実現されるとすれば、現在工学部図書館も手狭であり、白山に続いて川越にも新図書館の建設されることが望ましく、移行に伴う暫定的措置の立案は図書館内部で行い、施設・設備分科会に提出するのが適当であろうという見解が示された。

本館所蔵の『松姫物語』は去る十月十日から京都国立博物館に於て開催の「室町時代の美術」展に出品された。

× × ×

松姫物語は図書館ニュース創刊号で既に吉田幸一先生によって紹介された様に、本館所蔵の絵巻として最も古いものであり、また松姫物語と題する唯一の写本で、本書の貴重書である。本書の題材は、室町時代に婦女子の読物として書かれた通俗的な物語草子の類で、物語絵を伴っているから絵巻物という。この題材は語曲車僧(世阿弥作)を物語化した悲恋による発心談であり、稚拙な大和絵十五段を詞と交互に配して、長さ十三米ほどの絵巻物としたものである。絵は大和絵の盛んな平安末や鎌倉時代の美麗さはなく、鄙びた感じだが、形式に捉われない自由さや新味がある。

(山内記)

貴重書から

源三位頼政といえは、鵲と
いう怪鳥を射とめたことで、
その名をうたわれた勇士であ
る。その頼政が、どうしたこ
とか、「あやめのまへ」とい
う美女を一目見て、ひたすら恋
路に迷う身となった。さっそ
く歌を詠んで送ったが、その
まま投げ返される始末に、ま
すす思いがつのばかりであつた。た
またまそのことが上聞に達して、望みど
おり頼政に「あやめのまへ」を賜わると
いう仰せを蒙つた。ただし、同じ
ような美女を並べ
ておいて、そこか
ら相手を選ばせよ
うというのであ
る。そこで、「ま
こものまへ」とい
う美女を召して、「あやめ」と同じ装束
で、頼政の前に立たせた。思いわずら
う頼政は、とりあえず

さみだれに池のまこものしげりあ
ひいづれあやめをひきぞかぬぬる
と詠んだ。「いずれがあやめ、かきつば
た」というのと同じで、どれも美しくみ
えて、見分けがつかないというのであ
る。その歌の徳で、ただちに宣旨が下
り、「あやめのまへ」は頼政の手に渡され
たと伝えられる。

頼政と「あやめのまへ」との恋物語は、

『あやめのまへ』解説（表紙図版参照）

いくらかその内容を異にしながら、とも
に「いづれあやめ」の歌をともなつて、
『源平盛衰記』巻十六「菖蒲前事」や
『太平記』巻二十一「塩冶判官讒死事」
に語られている。最近の研究によると、
『太平記』の記事と一致するものが、
『平家物語』佐々木本の巻四「鵲」の条
に発見されている。また、頼政ではなく
て、梶原三郎兵衛という者が、同じよう
な歌を詠んだと、『沙石集』米沢本などの
巻五「人有感歌」の条に伝えられてい
る。しかし、ここに掲げた筋書は、それ

らの記事によらないで、本館所蔵の絵巻
『あやめのまへ』によつたものである。
この『あやめのまへ』という作品は、島
津久基博士旧蔵の絵巻や草子の中で、特
に古拙の趣の深いもので、ほかの伝本が
知られていないだけに注目される。本文
は岩波文庫の『続お伽草子』（昭和三十
一年刊）に収められたが、いまは発行さ
れていない。

本書は紙高一七・五cm、長さ五m余の
絵巻物一巻で、室町中期の書写本であ
る。大和絵の流れを汲んだ稚拙な絵が四

面ある。絵詞が絵の部分にまで入り込ん
で書かれているのは、桃山時代以前には
よくある例であるが、江戸時代になる
と、こうした現象は全くなくなる。つま
り絵と絵詞の部分とが截然と分かれてし
まうのである。

図版に出した部分（第一面に掲出は本
巻第一図、左の図版は第二図）は、主人
公の源三位頼政が、紫宸殿の御簾を巻い
て入るあやめの前の後姿を一目見て恋路
となり歌を詠んで贈るあたりの場面を描
いたものである。なお、本書は本学所蔵
の「松姫物語」につい

で古い絵巻物として、
貴重である。

文学部助教授

大島 健彦



〔筆写本〕

ひっしやぼん。略して「写本」と云う。

古文書を筆写したもの。書籍も現代では
印刷術が進歩し、複製も自由に行われる
様になったが、それ以前には写本の時代
があった。即ち手書により複製が行われ
ていた。

一、原本の上に薄葉紙をあてて透き写
しをした影写本。

二、原本を見て見取りうつしをする模
写本。

三、原本の文字を書き取る普通の写本
などがそれである。

筆写には時により写しちがえもあり、
同一原本からの写本でも、校異を生じる
ばあいがある。また筆写本によって、版
行した場合にも、異版ができるばあいも
ある。

〔絵巻物〕

えまきもの。絵を巻き物にしたものだ
が、その絵に詞（ことば）が添えてある。

わが国独特のもので、平安、鎌倉、室
町、江戸の各時代それぞれに、物語、伝
記、縁起などの題材を扱って、美しい絵
と文との調和を見せている。鳥の子紙の
ような上等紙に、良質の絵具、墨を使っ
て描き出されたいろいろの場面は、人を
引きつける魅力に富んでいる。

私立大学図書館協会は、日本私立大学協会などのような、法人が加盟の単位となる団体ではなく、それぞれの私立大学の図書館が加盟する団体である。

代表校は常任理事校であり、事務所をその代表校の図書館におき、加盟校は東地区（静岡、長野、石川の各県及びその以西）、西地区（愛知、岐阜、福井の各県及びその以西）に分かれ、地区部会を構成することになっている。

協会の目的は、大学図書館の改善、発達に資することであり、大学図書館に関する調査、研究及び成果の刊行、研究会、講演会の開催、対外関係活動などの諸事業を行っている。

協会の機関には、総会、大会、役員会などがあり、総会、大会は毎年一回五月頃常任理事校により招集され、三年に一回は関西、二回は関東で開催する規則となっている。総会では、事業計画、予算、決算、会則及細則の制定、改廃、役員校の選任、役員校の会務処理報告などを行い、大会では、大学図書館の運営、大学図書館の業務改善、大学図書館員の資質の向上及待遇改善、その他協会の対外関係活動などを審議す

私立大学図書館協会

る。本年度においては玉川大学図書館が当番となって総会大会が開催されたことは既に報告した通りである。

大会に引続いては研究会を開催し、加盟図書館員の自由な専門的調査、研究の成果発表、または権威者による講演が行われている。

役員会は、常任理事校、理事校、監事校で構成し、毎年二回以上常任理事校が招集し、会務を審議、議決し、総会、大会に対し責任をもつきまりである。常任理事校は、理事校の互選により選出し、理事校は、東地区部会四校、西地区部会三校、監事校は両部会から選出、それぞれ任期初年度の総会の承認を要することになっている。役員会の平常事務打合せ及び意見交換に便利にするために、東地区、西地区の役員校で構成する、地区役員会があり、両地区の役員会の意見一致の場合は、全国役員会の議決とすることができる。

地区部会は、既に述べた東地区、西地区とし、それぞれに属する加盟校で構成し、代表校を地区部会所属の理事校の互選による地区部会担当理事校とし、事務所を代表校の図書館におき、会則及び総

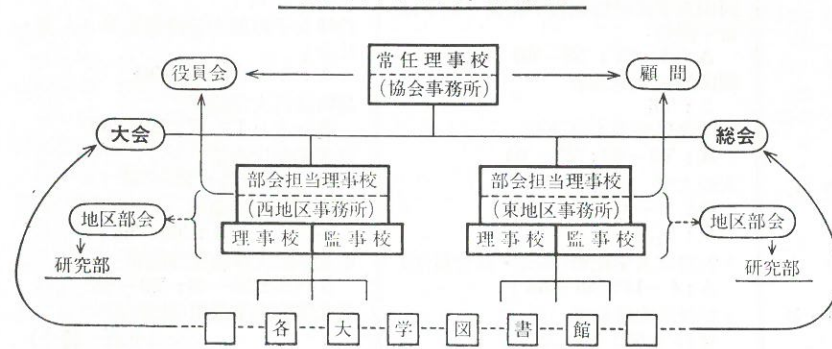
会及び大会の議決の範囲を越えない限り別に細則を定め、各々独自の活動を営むことができることになっている。これは総会の承認を要し、この活動は常任理事校に報告する必要がある。部会は最低年二回部会担当理事校が招集し、地区部会の総会事項を審議する機関であり、その議決は各館一票である。

部会研究会は部会担当理事校の管轄に属し、地区部会加盟校の図書館員で構成し、会員の自由な専門的調査、研究を助長し、その成果を大学図書館の改善、向上に資することを目的としている。

細則によつて定められたものに、東地区部会の研究部がある。これは、東地区に所属する図書館の館員で構成し、館員の自由な専門的調査、研究を助長し、その成果を改善、向上させることを目的としている。その事業としては、研究部会の開催、研究分科会の育成、研究集会の促進、機関誌の発行、他地区部会研究会との連絡、インフォメーションの交換などがあり、最低年三回の研究発表及び研究部の報告その他を行い、会場は加盟校が輪番で担当することとなっている。研究部には、代表としての研究部理事一名と、常任幹事八名（理事校三名その他五名）幹事各加盟校各館一名の役員をおくことになっているが、常任幹事は幹事のうちから選出し、研究部理事を助けて研究部の運営に当るきまりである。研究分科会は各グループごとに適宜開催し、そ

の研究の進行状況、成果その他を研究部理事及び研究部会に報告することになっている。研究分科会には現在、分類、目録、書誌学、事務能率、目録編成、逐次刊行物、レファレンス、図書館史があり、月一回程度の会合をもって、活潑な研究が行なわれている。（Y記）

私立大学図書館協会



交 換 誌 一 覧 (その3)

- 駒沢大学 商経学会研究論集
5—9: '64—'67
- 甲南大学 甲南法学
Q: $\frac{1}{4}$ — $\frac{7}{4}$: '60—'67 欠: $\frac{1}{3}$, 4
- 熊本大学 法文論叢
A: 2—21: '51—'66
欠: 3, 4, 14
- 熊本商科大学 熊本商大論集
S—A: 1—24: '54—'67
- 久留米大学 産業経済研究
Q: 1—32: '55—'63
欠: 6—14, 17, 20—21, 25—26, 28
- 協同組合短期大学 調査時報
A: 2—19: '58—'65
欠: 3, 6—12, 16—18
- 九州大学 法文論叢
不定期: 1—33: '27—'43
- 九州大学 法政研究
B—M: $\frac{1}{4}$ — $\frac{3}{4}$: '31—'66
欠: 7, $\frac{1}{2}$, 12, $\frac{1}{2}$ —23, $\frac{2}{4}$, $\frac{3}{4}$ —6, $\frac{3}{4}$ —4
- 九州大学時報別冊
Q: 1—15: '62—'66 欠: 14
- 九州大学 経済学研究
Q: $\frac{1}{4}$ — $\frac{3}{4}$: '52—'66
欠: $\frac{1}{2}$ —4
- 九州大学 大学院経済論究
S—A: 1—19: '57—'66
- 九州工業大学 研究報告 (人文・社会科学)
A: 1—14: '53—'66
- 九州産業大学 産業経営研究所報
1: '66
- 九州産業大学 商経論叢
A—3: $\frac{5}{4}$ — $\frac{9}{4}$: '64—'66
- 九州商科大学 商経論叢
1: '60
- 松山商科大学 中小企業研究所報
1: '65
- 松山商科大学 四国地方重要経済日誌
不定: 35—40: '60—'66
- 松山商科大学 商大論集
Q: $\frac{2}{4}$ — $\frac{1}{4}$: '51—'66
欠: 4, $\frac{8}{4}$, $\frac{9}{4}$, 4
- 明治大学 経営論叢
Q: 6— $\frac{1}{4}$: '56—'67
欠: $\frac{1}{2}$, $\frac{1}{4}$
- 明治大学 政経論叢
B—M: $\frac{2}{4}$ — $\frac{3}{4}$: '51—'67
- 明治大学 商学研究年報
1—4: '56—'58
- 明治大学 商学論叢
A—8: $\frac{3}{4}$ — $\frac{5}{4}$: '54—'67
欠: $\frac{3}{4}$, $\frac{4}{4}$, 2, $\frac{4}{4}$
- 明治大学 法律論叢
B—M: $\frac{1}{4}$ — $\frac{3}{4}$: '36—'63
欠: $\frac{1}{4}$ — $\frac{3}{4}$, $\frac{3}{4}$, 5, 6, $\frac{3}{4}$ —5, $\frac{3}{4}$, $\frac{3}{4}$, $\frac{3}{4}$
- 明城大学 明城法学
Q: $\frac{1}{4}$ — $\frac{1}{4}$: '61—'63
欠: $\frac{1}{4}$, 3, 4
- 三重県立大学 研究年報 (人文・社会)
 $\frac{1}{4}$ — $\frac{3}{4}$: '52—'63
- 三重短期大学 三重法経
A: 1—7: '53—'66 欠: 13
- 長崎県立短期大学 経済と文化
A: 1—9: '59—'66 欠: 7
- 長崎県立短期大学 佐世保英商部研究紀要
A: 4—14: '56—'66
- 名古屋大学 調査と資料
S—A: 4—13: '53—'58
- 名古屋大学 経済科学
Q: $\frac{1}{4}$ — $\frac{1}{4}$: '51—'66
欠: $\frac{3}{4}$, $\frac{3}{4}$, $\frac{5}{4}$ — $\frac{9}{4}$
- 名古屋大学 法政論集
Q: 13—24: '59—'63
欠: 15, 19—23
- 名古屋商科大学論集
A: 1—10: '56—'66 欠: 4, 6
- 名古屋商科大学 経営研究
6: '66
- 奈良教育大学紀要 (人文・社会・自然)
S—A: $\frac{1}{4}$ — $\frac{1}{4}$: '51—'67
- 日本大学 経済集志
不定: $\frac{3}{4}$ — $\frac{3}{4}$: '62—'67
欠: $\frac{2}{4}$ — $\frac{3}{4}$, $\frac{3}{4}$
- 日本大学 日本法学
B—M: $\frac{1}{4}$ — $\frac{2}{4}$: '35—'63
欠: $\frac{1}{4}$, 5, 6, 8—12, $\frac{2}{4}$, $\frac{3}{4}$ —3, 5, 6, 9, $\frac{4}{4}$ —12, $\frac{5}{4}$ —3, 6, 10, $\frac{7}{4}$ —12— $\frac{9}{4}$, 6, $\frac{9}{4}$ —26
- 日本大学 商学集志
Q: $\frac{3}{4}$ — $\frac{3}{4}$: '64—'65
- 日本福祉大学 福祉研究
A: 13—18: '63—'67
- 日本女子経済短期大学研究論集
A: 1—13: '55—'66
欠: 5, 7—12
- 日本社会事業短期大学研究紀要
A: 4—14: '56—'66 欠: 9—12
- 新潟大学 法経論集
Q: $\frac{2}{4}$ — $\frac{1}{4}$: '52—'56
- 新潟大学 社会学論集
A: 6—8: '65—'66
- 大分大学 経済論集
Q: $\frac{1}{4}$ — $\frac{1}{4}$: '54—'67
欠: $\frac{1}{4}$, 4, $\frac{1}{4}$ —3, $\frac{1}{4}$ —2, 4
- 岡山大学 法経学会雑誌
Q: 3—46: '52—'63
欠: 4—9, 16—20, 27, 29, 30, 39, 41—45
- 岡山大学法経短期大学紀要 法学経済学論集
A: 1—3: '58—'60
- 岡山商科大学論叢
2: '66
- 岡山商科短期大学論叢
A: '63—'64: '63—'64
- 大阪大学 経済学
Q: 3— $\frac{1}{4}$: '52—'59
欠: $\frac{1}{4}$, 3, 4
- 大阪府立大学紀要 (人文・社会科学)
A: 4—14: '56—'66
- 大阪経済大学論集
Q: 5—56: '52—'67
- 欠: 8—12, 34
- 大阪商業大学論集
A: 1—24: '52—'66
- 立教大学 応用社会学研究
A: 8—10: '65—'66
- 立教大学 立教法学
A: 1—4: '60—'62
- 立命館大学 法学
Q: 21—60: '57—'65
- 立命館大学 経済学
B—M: $\frac{5}{4}$ — $\frac{1}{4}$: '56—'67
欠: $\frac{1}{4}$, 3—5, $\frac{7}{4}$, $\frac{7}{4}$ — $\frac{8}{4}$, $\frac{8}{4}$, 6, $\frac{10}{4}$ —3, $\frac{11}{4}$ —3, $\frac{13}{4}$
- 琉球大学 経済研究
A: 1—6: '59—'65 欠: 2, 3
- 琉球大学 文理学部紀要 (社会篇)
A: 2—9: '57—'65 欠: 5
- 埼玉大学紀要 社会科学
A: 4—13: '55—'65 欠: 8
- 埼玉大学教養部紀要 (社会科学篇)
1: '66
- 成城大学 経済研究
S—A: 1—21: '53—'65
- 成城大学 政治経済論叢
A: $\frac{1}{4}$ — $\frac{1}{4}$: '49—'61 欠: $\frac{1}{2}$
- 西南学院大学 経済学論集
 $\frac{1}{4}$ — $\frac{1}{2}$: '66
- 西南学院大学 商学論集
Q: $\frac{1}{4}$ — $\frac{1}{4}$: '55—'66
- 専修大学 法学論集
A: 1—2: '65
- 専修大学 経営学論集
A: 1—2: '65—'66
- 専修大学 経済学論集
A: 1—2: '65—'66
- 専修大学 社会科学年報
1: '66
- 専修大学 商学論集
A: 1—2: '65—'66
- 滋賀大学文学部紀要 (人文・社会・教育)
A: 3—16: '54—'66
- 島根大学論集 (社会科学)
A: 1—6: '55—'60
- 信州大学教育学部研究論集 (人文・社会) (自然)
A: 1—18: '51—'66
- 静岡大学 法経研究
 $\frac{1}{4}$ —3: '66—'67
- 静岡大学法経短期大学部 法経論集
S—A: 2—22: '55—'67
欠: 4, 5, 7
- 鈴峰女子短期大学研究集報 (人文・社会)
A: 1—8: '54—'61
- 高崎経済大学論集
S—A: 1—17: '59—'60
- 東北大学 法学
Q: $\frac{1}{4}$ — $\frac{2}{4}$: '32—'63
- 東北福祉大学論集
不定: 5—6: '63—'66
- 東北学院大学論集 (経済)
S—A: 35—48: '59—'65
- 東北学院大学論集 (法学)
(9頁へ続く)

本学と他大学との交換誌のうち、図書館では、1967年3月現在、301大学507機関より615種を受入れ、それを総記、人文科学、社会科学、自然科学部門に分け、先回の人文科学にひき続き社会科学を記載しました。なお、各研究室宛で直送される交換誌について、またこの一覧の分類記載事項及び逐次刊行物の案内についての御意見をお寄せ載ければ幸いです。

(逐次刊行物係 林)

社会科学

愛知大学 法経論集(法)(経)

Q : 2-53 : '53-'67

愛知学芸大学 研究報告(人文)(社会)

A : 1-15 : '52-'66

愛知学院大学論叢 法学研究

S-A : 1- $\frac{1}{2}$: '58-'66

愛知学院大学論叢 商学研究

S-A : $\frac{1}{4}$ - $\frac{1}{4}$: '54-'66

愛知女子短期大学紀要(人文・社会・自然)(語学・文学)

A : 1-16 : '50-'66

秋田大学 学芸学部研究紀要(人文)(社会)(自然)(教育)

A : 2-16 : '52-'66

秋田経済大学論叢

7 : '65

青山学院大学 法学論集

S-A : $\frac{1}{4}$ - $\frac{1}{2}$: '59-'65

青山学院大学 経営論集

Q : $\frac{1}{4}$ - $\frac{1}{4}$: '66-'67

青山学院大学 経済論集

Q : $\frac{3}{4}$: '54 : '51-'67 欠 : $\frac{5}{2}$,

$\frac{5}{2}$ -3, $\frac{9}{4}$, 3, $\frac{1}{3}$ -4, $\frac{1}{4}$, $\frac{1}{3}$ -4,

$\frac{1}{4}$, 3-4, $\frac{1}{4}$, $\frac{1}{2}$, $\frac{1}{4}$

中京大学 中京法学

$\frac{1}{4}$: '65

中京大学 法学新報

M : $\frac{1}{4}$ - $\frac{7}{8}$: '8-'65

中京大学 経済論集

B-M : 44-84 : '52-'59

欠 : 50-51, 54-56, 58, 68

大東文化大学紀要(経済学部)

A : 1-4 : '63-'66

大東文化大学 経済論集

A : 3-6 : '64-'66

同志社大学 同志社法学

B-M : 198 : '49-'66 欠 : 29

同志社大学 経済学論叢

B-M : $\frac{1}{4}$ - $\frac{1}{6}$: '56-'67

同志社大学 同志社商学

B-M : $\frac{1}{2}$ - $\frac{1}{8}$, 4 : '49-'67

欠 : $\frac{1}{4}$

福岡大学 法学論叢

Q : $\frac{1}{2}$ - $\frac{1}{2}$: '57-'63

欠 : $\frac{3}{4}$, $\frac{3}{2}$, $\frac{5}{8}$, 4, $\frac{9}{4}$

福岡大学 経済学論叢

Q : $\frac{3}{2}$ - $\frac{4}{4}$: '57-'59 欠 : $\frac{9}{4}$

福岡大学 商学論叢

Q : $\frac{1}{4}$ - $\frac{3}{4}$: '57-'59

福岡商科大学 福岡商大論叢

Q : $\frac{3}{4}$ - $\frac{9}{4}$: '50-'55

福島大学 学芸学部論集(社会科学)

A : 2-18 : '51-'66 欠 : 3

福島大学 商学論集

$\frac{2}{2}$: '51

浜松商科大学 研究論集

3-4 : '57-'60

広島大学 政経論叢

Q : $\frac{9}{4}$ - $\frac{1}{3}$: '59-'63

広島女子大学紀要(人文・社会科学)

A : 1-2 : '66-'67

一橋大学(一橋学会) 経済学研究

A : 9 10 : '65-'66

一橋大学 商学研究

9 : '65

一橋大学 社会学研究

A : 6 8 : '64-'66

一橋大学 法学研究

6 : '66

法政大学 法学史林

Q : $\frac{1}{4}$ - $\frac{6}{4}$: '8-'67 欠 : 15,

16, 19, 24-29, 35, 36

法政大学 経済史林

Q : $\frac{2}{4}$ - $\frac{3}{4}$: '53-'67

北海道大学 法学論集

Q : $\frac{3}{4}$ - $\frac{1}{4}$: '58-'63

欠 : $\frac{9}{4}$, $\frac{1}{4}$, $\frac{1}{4}$, $\frac{1}{4}$

北海学園大学 法学研究

1 : '66

北海学園大学 経済論集

A : 1-15 : '53-'66

北海道教育大学紀要 1部

B社会科学

A : $\frac{1}{4}$ - $\frac{1}{2}$: '64-'65

北海道教育大学紀要 2部

B社会科学

A : $\frac{1}{4}$ - $\frac{1}{2}$: '64-'65

茨城大学 政経学会雑誌

A : 1-19 : '55-'66

市邨学園短期大学 社会科学論集

1 : '66

上智大学 法学論集

S-A : $\frac{1}{4}$ - $\frac{1}{2}$: '57-'65

欠 : $\frac{5}{2}$

城西大学 城西経済学会誌

S-A : $\frac{3}{4}$ -2 : '66

女子美術大学紀要

1 : 42

香川大学 経済論叢

B-M : $\frac{3}{4}$ - $\frac{3}{8}$: '62-'65

欠 : $\frac{3}{8}$

鹿児島大学文理学部 社会科学報告

A : 6 10 : '59-'63

鹿児島経済大学 鹿児島経大論集

Q : $\frac{1}{4}$ - $\frac{1}{4}$: '60-'67 欠 : $\frac{9}{4}$

鹿児島商科大学 商大論叢

S-A : 1-13 : '53-'59

欠 : 2, 5, 6

神奈川大学 商経法論叢

Q : $\frac{9}{4}$ - $\frac{1}{4}$: '58-'64

欠 : $\frac{9}{4}$, $\frac{1}{3}$, $\frac{1}{4}$, $\frac{1}{4}$, $\frac{1}{4}$

金沢大学 法文学部論集(法経篇)

A : 1-13 : '54-'66

金沢大学 金沢法学

S-A : $\frac{1}{4}$ - $\frac{1}{2}$: '55-'66

欠 : $\frac{1}{2}$, $\frac{3}{4}$, $\frac{5}{8}$, $\frac{5}{8}$, 8-11

金沢大学 経済論集

6 : '67

金沢大学 社会教育研究

A : 1-7 : '60-'66 欠 : 2

関西大学 法学論集

S-M : $\frac{1}{2}$ - $\frac{1}{4}$: '51-'62

欠 : $\frac{3}{4}$, $\frac{4}{4}$, $\frac{5}{2}$ -4, $\frac{9}{2}$

関西大学 商学論集

S-M : $\frac{1}{4}$ - $\frac{1}{2}$: '56-'66

欠 : $\frac{4}{8}$, $\frac{9}{8}$

関西大学 経済論集

S-M : $\frac{1}{2}$ - $\frac{1}{8}$: '51-'67

欠 : $\frac{1}{4}$, 4-6

関西学院大学 法と政治

Q : $\frac{1}{4}$ - $\frac{1}{2}$: '62-'63

関西学院大学 経済学論叢

Q : $\frac{5}{8}$ - $\frac{2}{8}$: '52-'66

関西学院大学 産業研究

Q : 7-20 : '56-'61

欠 : 11, 17, 18

関西学院大学 商学論叢

Q : 1-11 : '34-'37

関東学院大学紀要 経済系

69 : '6

慶応義塾大学 法学研究

M : $\frac{2}{4}$ - $\frac{3}{4}$: '50-'63

欠 : $\frac{2}{4}$ -6, $\frac{2}{4}$, $\frac{2}{4}$ - $\frac{2}{8}$, $\frac{2}{4}$

$\frac{2}{4}$ - $\frac{6}{4}$, $\frac{3}{4}$ -9, $\frac{3}{4}$, $\frac{3}{4}$

慶応義塾大学 経済学年報

2-10 : '59-'67 欠 : 3-7

近畿大学 法学

Q : $\frac{5}{4}$ - $\frac{1}{2}$: '57-'66

欠 : $\frac{7}{2}$ -4, $\frac{9}{2}$, $\frac{1}{4}$

近畿大学 世界経済問題研究叢書

不定 : 2-4 : '60-'66

近畿大学 世界経済リポート

17 : '66

近畿大学 商経学叢

S-A : 12-32 : '57-'67

欠 : 14, 15, 20-30

北九州大学 商学部紀要

A : 2-15 : '58-'65 欠 : 11

北九州大学 商経論集

Q : $\frac{1}{4}$ - $\frac{3}{4}$: '65-'67

神戸大学 神戸法学雑誌

Q : $\frac{8}{4}$ - $\frac{1}{4}$: '58-'64 欠 : $\frac{9}{4}$

神戸大学 経済経営研究叢書

11 : '66

神戸大学 国民経済誌

S-M : $\frac{8}{4}$ - $\frac{1}{4}$: '52-'67

神戸商科大学 商大論集

B-M : 14-52 : '54-'61

国学院大学 政経論叢

Q : $\frac{1}{4}$ - $\frac{1}{4}$: '52-'63 欠 : $\frac{3}{4}$,

$\frac{3}{4}$ -4, $\frac{5}{2}$, $\frac{9}{8}$ - $\frac{9}{4}$, $\frac{1}{4}$ -3

国際基督教大学 社会科学ジャーナル

S-A : 4-5 : '63-'64

国士館大学 政経論叢

1 : '64

駒沢大学 法学論集

1-3 : '64-'66

創立八十年にあたり

東洋大学図書館の思い出

宇野脩平

私は一九三六年春から一九四〇年の春まで東洋大学に在学した。

そのころ東洋の図書館にどういふ本があったか、全然記憶に残っていないが、図書館の閲覧室はよく利用した。明るくて閲覧者が少なくて、見晴しのいい、気持ちいい図書館であった。カードの引き方もやさしかった記憶があるから、やはり書物も借りたのであろう。湯沢幸吉郎先生が、いつも風呂敷包みをかかえて教授閲覧室へ入ってゆかれるのをみかけたものであった。

いま東洋大学八十年史が印刷されつつあるが、東洋大学の図書館は、最初哲学館といったころ、湯島の麟祥院時代にはその設備なく、蓬萊町に移ってから、館内の一室を利用して図書の増加につとめていたが、一八九三年十二月、隣接する郁文館の失火に類焼したので、井上円了先生は図書館建設の運動を積極的にはじめた。井上先生は困難にあえばあう程、勇躍奮闘する型の人である。

「学校のみにて図書館なきは、恰も兵

士ありて武器なく、銃砲ありて火薬なきが如く、学生たるもの何程研究を進めんとするも奈如とも致すことができない」「存命中に香典を募る積りで」、図書館建設資金をつのり、図書寄贈者には、その文庫名をつけ、また寄附金提供者に対しては、その氏名を購入図書に明記する等のことをおこなった。

こうして原町の正面石段を上った西北部に出来た最初の図書館は、一九〇〇年五月に開館式をあげ、その一九二九年六月新図書館が建築されるとともに廃館となつて、学生の部室や銃器庫として利用されていたが、一九三七年八月に取り壊された。ぼくらが、鉄砲をとりにつたりした建物は最初の書書館であったし、また図書館として愛用していた図書館は、今も蔦の葉しげる図書館でもあるが、そのころは建設後六、七年たったぐらしいの一番使いよくなくなってたころであつたらしい。

先生の休講のときや、時間のあいているときは、だいたい図書館に来ていた。

本をよんだり、書物のあき箱を資料整理用にもらうためであった。南伝大蔵経の外函などは毎回ぼくにくれることになっていた。

下宿ははじめ白山御殿町の小石川植物園を一時の下にみるような家であったが、近くに東洋文庫があったし、のち麻布飯倉にあった紀州関係の南葵育英会の寄宿舎に移ったが、学校へゆきかえりの途中には、神保町の古本街があり、九段下の大橋図書館があり、日比谷の図書館があり、帰れば帰ったで、旧南葵文庫関係の人びとと話す機会も多かったから、わがゆく所、どこにも図書館があつて、図書館について不自由を感じたことはなかった。

それは地理的にめぐまれてたこともあったろうが、一つには私が当時、東洋大学に求めたのは師であつて、本や建物ではなかったことから来ていようし、また書物はできるだけ買っておこうとする考えを、あのころの東洋の学生が皆もっていたことから来ていようが、予科の時代にちよつと村の歴史について質問しても、石川義昌先生はセリグマンの「ピリジ・コミュニティ」の原本を貸して下さるというような調子だし、小野玄妙先生からは壮大な仏典の大系に目をひらかれ、松浦貞俊先生からは和書への愛情を鼓吹されるといふ有様であつた。

しかも麻布の寄宿舎へ帰れば、金沢文庫や足利学校から伝来して南葵文庫に納

まっていたが、いつか行方不明になったものの捜索や、また加藤清正が朝鮮から持ちかえり、その娘が紀州家へ嫁入りしたときに持たせてやった朝鮮活字の行方しらべを、学生の立場でやつてほしいと頼まれたりして、宮内省図書寮の橋井清五郎氏にあつたり、高木文次郎氏にあつたりした。「図書館ニュース第二号」に石田教授に解説されている源氏物語帯木が、東洋の図書館に入ったのも因縁というものであろう。とにかくそうした学生生活であつたから、図書にはあまり不自由を感じなかった。

しかしそのころは学生全部で四、五百人というありさまであったから、快適な図書館であつたものの、いまそのころの三、四十倍の学生を擁するほどに発展した大学の図書館としては大変のことである。創立八十年の記念事業の一つとして図書館の建設が計画されたのは、まことに当然のことである。

このごろときどき古文書を複写するために母校図書館の設備を利用してもらっている。そういうとき事務室に積まれたうづ高い購入書の山をみて、母校の発展を心からよろこんでいるし、第二閲覧室に充満した学生諸君の真剣な読書姿をみて、早く壮大な図書館が白山にも、川越にも作られることを希っている。

戦後、文部省史料館の予算が始めて通つて、建物をさがしたころ、東洋大学図書館も、その候補にあがり、打診をたの

まれたことがあったが、私自身いろいろ考えてその話を進めなかった。また渋沢敬三先生に名誉学位をおくられたところ、先生から「四部叢刊」を東洋図書館に寄贈され、その使いをしたことがあった。

分館の雑誌について

中 村 記

母校創立八十年の秋をむかえて、一卒業生の図書館の思い出である。

(筆者は昭和十五年本学卒業現在、東京女子大学教授、本学選考委員並びに評議員 新刊「大岡越前守」の著者)

工学部図書館では学術雑誌の利用が著しいことは云うまでもありません。新着のものはもちろんのこと、かなり古いものでも頻りに利用されます。当然のことながら図書館としても雑誌の取扱いに対して充分な対策を講じなければならぬ現状に至っています。

現在新着雑誌はだいたい於て、和雑誌は図書館参考室に、洋雑誌は各研究室に配架され、それぞれかなり有効に利用されています。それらの部数は決して満足のいくものではありませんが、複写による相互協力の形で不備の点を補っています。現在あるものだけでも完全に利用するためには、内容速報のようなものが必要かと思われますが、現状ではそこまで手がとどいておりません。

問題はバックナンバーのものについてあります。工学部はまだ歴史が浅いせいもあって、雑誌の多くはここ数年來のものしかなく、利用者に多くの不便をかけ

て来ました。図書館としてはこの弱点を強化するためにできる限りの努力をしています。そして最近では建築・土木関係の雑誌のバックをかなり大量に購入しました。例をあげると「土木学会誌」「土木技術」「Proceedings of the A.S.C.E.」「Bauen und Wohnen」「Werk」等々です。この努力はこれからも続け、研究活動に支障をきたすことのないようにしたいと思っています。

揃ったバックは製本され書庫にありますが、すから、いつでも利用できます。それらは和洋別は誌名のアルファベット順に配架されていますが、雑誌用閲覧カードの作成と共に、分類順に配架し直す計画を立てて、目下着々と準備しています。完成すれば係員に相談しなくても、カードによって雑誌の所在を知ることができるようになり、大きな便宜をもたらすでしょう。

雑誌取扱い業務は現在のところ幾人か

が分担して行っており、しかも他の仕事と兼ねているために、時とすると不便を感じることはありませんが、将来の希望としては、各個別々になされているそれらの仕事を統一し、専任の職員に当らせることによつて、雑誌部門を充実し、利用者に対しては図書館側としても一層の便宜を計るようになりたいと願っています。またあわせて雑誌受入れ作業の合理化を考えています。今後雑誌利用はますます多くなり、図書館が雑誌を通して研究者の方々に奉仕することも増大すると思われませんが、図書館の一人相撲になってしまふことのないように、学内の皆様の御協力をお願いする次第です。

(分館員)

1: '65
徳島大学学芸紀要 社会科学
A: 1—15: '52—'66
東京大学 新聞研究所紀要
A: 3—10: '54—'62
欠: 1—2, 7
東京女子体育大学紀要
1: '66
東京家政大学研究紀要
A: 1—6: '56—'66
東京経済大学 産業貿易研究
Q: 1—30: '58—'66 欠: 8
富山大学 北陸経済季報
S—A: 1/1—4/2: '59—'61
富山大学 経済学部輪集
S—A: 4—14: '54—'59
欠: 6, 12, 13
富山大学 富大経済論集
Q: 5/1—12/2: '59—'66

欠: 6/1, 3, 4, 9/1, 11/1
早稲田大学学術研究 (人文・社会)
A: 1—15: '52—'66
早稲田大学 比較法学
A: 1/1—3/1: '64—'67
早稲田大学 比較法研究所紀要
A—5: 5—21: '59—'63
欠: 6, 7 廃刊
早稲田大学 政治経済学雑誌
30—123: '33—'53
欠: 34, 35, 47—49, 51—57,
61—67, 77—79, 8490—95,
101, 121
早稲田大学 早稲田法学
S—A: 1/1—4/2: '22—'66
欠: 23, 28, 30
早稲田大学 早稲田商学
B—M: 88—192: '50—'67
欠: 82—87, 89, 96, 102, 105,

110, 142—147, 153, 154,
156—158
和歌山大学 経済理論
Q: 6—23: '52—'55
欠: 9, 11—14
山形大学紀要 社会科学
A: 1/1—2/3: '60—'65
山口大学 経済学雑誌
B—M: 2/3—17/1: '51—'66
欠: 3/1, 3, 4/1, 2, 5, 6, 7/5, 6, 8/3—5,
10/1—3, 11/3—4, 15/5
横浜国立大学 エコノミア
Q: 11—29: '55—'66
横浜市立大学 経済と貿易
S—A: 54—72: '52—'65
欠: 57—63, 68, 71

雑誌室

雑誌室、座席数二十六という閲覧室中で最も小さな部屋、展示書架六連、屋示されている雑誌は購入されるものの一部に過ぎないが、一ヶ月の間には見るも無惨な姿になるものもある。入れ代り、立ち代りする学生で、満員の状態が続く、本屋の店頭のように立ち読みをしながら席の空くのを待つ人達も多い。一日に一五〇人余りが出入するわけである。

逐次刊行物の利用頻度は、日を追って増加しているにもかかわらず、それを提供する側の手段は、科学技術系、理工科系、企業体を除いては、追いつけず、全くお手上げで、サーヴィスにはおよそほど遠い状態にある。

細々ながら既成の索引類に頼る以外にないのだが、累積索引皆無の現在、時間、人手不足の現状では、何とも消化出来るものではない。一たん書庫へ入ったものは、めったに陽の目を見ない状態に置かれていても、少しも不思議ではなかった時代は既に過去のものであり、長い間片隅に押やられ、継子の如き扱いを受けて来た逐次刊行物、いわゆる雑誌

が、急速に利用の光を浴びたのであるから、頭の切更えもスムーズではなく、足もとはおぼつかず、一人前とは云いかねる有様で、まだまだ一足飛びに階段を駆け上り、人前に出るわけには行かない。デジタル・インデックス、二次資料の作成、パンチカードシステムへの切更え、等々、一段一段踏みしめて行かなければならない。書庫から閲覧室へ出る迄には、相当長い時間がかかりそうである。

戦火に逢ったり、GHQの命令で廃棄したりした図書館の多い中で、我が図書館には、戦前、戦中の現在では貴重とされるものも少なくない。図書館の諸先輩の努力によるものであり、感謝に堪えない。又一方、割合に完全な姿で残されているという事は、余り利用されなかったおかげも含まれるかも知れない。現在の様に利用されていたならば、複写設備も無かった事であるから、きつとぼつぼろになり、跡形も無くなっていた事であろう。複写設備の整って来た今日、他大学の要求に応じて、こうした文献を提供する事も多くなって来ている。

今後増々雑誌論文の利用度は高くなる事であろうし、出発点に立ったばかりの状態にある我々閲覧のスタッフにとつては、やり甲斐があると同時に、途惑う事も多々であろう。

図書館の最前戦である閲覧業務を發展させ、資料の運用を円滑に行う為には、我々スタッフの努力を積み重ねると同時に

に、教員諸氏の御指導、御協力をまた、他部所の館員諸氏の御協力を期待したい。
(逐次係 林)

図書館短信

ゼロックスの使用料金について

四十二年十一月一日よりゼロックスの使用料金が変わりました。

一枚につき、三十円から二十五円になっております。

増加目録の残部について

増加図書目録第五号、第六号(和洋分冊)に残部がございます。

御入用の方は図書館館長室迄お申し出下さい。

諸委員会開催経過

図書館建設準備委員会(第10回)

42.9.22(金) 研修室

議題: 川越移転に伴う図書館建設の諸問題。

図書選択委員会(42年度第3回)

42.9.28(木) 来賓室

図書館運営委員会(42年度第2回)

42.10.16(月) 会議室

議題: (1) 昭和43年度図書予算について

(2) ゼロックスの料金について

分館だより!

期末試験も終り読書の秋となり、閲覧室には再び勉強のムードが訪ずれています。さきに購入された教養関係の図書も次第に利用されるようになりましたが、美術全集や世界文化地理等は特に親しまれています。今まで雑然と並んでいた岩波文庫も冊数が多くなり。赤「外国文学」青「哲学、思想」緑「日本文学」黄「古典文学」白「社会科学」の印をつけ大きく分類し、これで本を捜すのが大分楽になりました。工学部関係の専門図書は利用者が多い為、いたみはげしく大変みだれています。その為私達は図書を捜すのに苦労することがしばしばあります。尚利用者へお願い、貸出した図書が期限内に返却されない場合、私共はもちろん、利用される皆様も大変迷惑を感じていると思います。

借りた本は是非期限内に返却して下さいようお願い致します。又この夏休みに大量の雑誌が製本されましたので書庫の中が見えがえるように整備されました。来春から教養課程一年生が川越移転になるというニュースに接し図書館としてもあれこれと受け入れの準備をしています。

分館員 坂本ヨシ